

小室翠雲 たけふ 南畫家、漢詩人。明治七年八月二十一日群馬縣館林  
 生れ、昭和二十年三月二十日歿（八七歳一〇四五）。木谷貞次郎、翠雲山  
 人、翠雲山樵貞、翠雲衛人、翠雲貞、翠雲釣徒貞、長興等と署名。田  
 崎草堂の師事。上京して南宗畫會、日本美術協會の活動。明治四十年  
 正派同志會結成の際に副委員長、のち文展、帝展審査員を務め、大正  
 十二年帝國美術院會員となる。また日本南畫院、大東南宗院の創設に  
 參劃、雑誌『南畫鑑賞』を創刊した。昭和十九年帝室教授委員。

畫集『承露閣畫集』（大正二年九月二十日京田録古・玉村義十編輯）、  
 『承露閣畫集』（大正五年二月十五日栃木・篠崎龍太郎編輯）、『樂  
 只冊』（本山豐實編、昭和八年七月十五日樂只會）等の他、『翠雲爐  
 邊畫談』（昭和十年十一月十八日國畫刊行會、雄風館書店發賣）、『翠  
 雲隨筆』（於保博編、昭和十八年八月二十五日丹青書房）刊。

